

スクールカウンセラー

中谷じいやのつぶやき



2021年7月19日

石川県立小松高等学校教育相談室

前回の続きです。(6月発行の「中谷じいやのつぶやき」をご覧ください。本校HPにも掲載中です。) 皆さんが中学生・高校生の時、親御さんに「勉強しなさい」と云われましたか? 云われた経験をお持ちの方、そう云われてどう思われましたか? 覚えておいてでしょうか。

私の場合、そろそろTVを切り上げて部屋で勉強しよう、と考えた矢先(いつもそうでした)に必ずと云っていいほど、「勉強はどうなってるの!?!」と「例のお小言」が飛んできました。「今からやろうと思ってたのに…」つまり「勉強は…」「今からやろうと…」の繰り返しを毎日、恒例行事として行われていました。

次の親の言葉が最も嫌いでした=「全く、云わないとやらないんだから!」

←これがとても嫌いで、勉強しようとする気持ちがどす黒い反抗の気持ちで塗りつぶされて行ったように記憶しています。



子どもは自分で予定を立てる能力をちゃんと持っています。その時の自分の状況(=今、何をしなければならないか? 不足を補うか、アドバンテージを補強するか、考えています。

……皆さんもそうだったでしょう?



前回も「自立の練習の必要性」について触れました。今回も同様です。子どもが自分で考えて動こうとしているときに、その「芽」を摘み取らないで下さい。多くの世の親がここで子どもに恨まれています(恨んでいると云わないだけです。皆さんも多分仰らなかったでしょう)。

1 学期の成績が帰ってくる時期です。今学期の中間・期末の結果も出ています。本人が一番よくわかっています。ですから多くの言葉かけは不要です。結果をご覧になったら「そうか、お前(あなた・君)に任せた」

←この「任せた」がとても効くのです。だって自分に任されたんですよ。全権委任みたいなものです。責任重大だと云う事は誰でも理解できるでしょう。後は前回も申し上げた「お手並み拝見」のスタンスです。子ども自身の人生を、子ども自身で生きていくお手並みの「最初の一歩(チャンス)」を子どもにあげましょう。

「でも心配で、」と皆さん仰るでしょう。親も不安だからです。親として安心したいからです。だったら「心配してるから云うんだ」と云う事です。だったら「心配するのは親の仕事、できたら安心させてくれよ。さあ、どうする?」くらいではどうでしょうか?

だって、誰でも自分の子どもの人生のお手伝いはできても、代わって何かすると云う事は不可能なのですから。自分で考えてやってもらうしかありません。カウンセラーも問題を代わって解決したりできません。解決のお手伝いをしているだけです。

子どもが自分なりのペースで、頑張ったり休憩したりを続けていくのです。これは誰でもそのはずです。考えたら私たち大人だって、自分で考えてペース配分をして、頑張ったり休憩したり、でしょう? この練習を子どもたちにも始めてもらいませんか?

小学校時代と比べてみて下さい。学校の事を昔のようになんでも話したりしているでしょうか? 友達とのトラブルや会話の内容について話していますか? していないと思います。つまり「自立=親離れ」が始まっているのです。

お子さんにはお子さん自身の人生を歩いて行ってもらうしかないのです。そのためには「指示待ち族」ではない、自分で考える力が必要です。考えてやってみる練習をしてもらいたいです。

